

本物にふれるコンサート

7/21

さゆり幼稚園で第12回おやこコンサートが開催されました

さゆり幼稚園のホールを会場にクラシックのミニコンサートが開催され、園児や保護者のほか近隣の住人などおよそ50人が来場しました。

コンサートではバイオリン・ピアノ・ソプラノのプロによる演奏が14曲披露され、曲によっては園児たちも合唱で参加しました。

主催者であるさゆり幼稚園の松下文代園長は「このコンサートは質の高い生の演奏を聴いてもらおうと毎年開催しています。多くの皆さんにいらしていただきたい」と話していました。



●それぞれの演奏に大きな拍手が送られていました

伝統を継承するために

7/13

伝統文化についてのワークショップが開催されました

千年の学校の学生や町内の伝統文化保存会の会員など、およそ30人が集まった意見交換会が実施されました。

今回は静岡県立大学の地域連携コーディネーターである小山弘子氏を講師に招き、「伝統文化の継承を発信していくにはどうしたらよいか」「自分たちにとっての伝統とは」などといったテーマをもとに、9月7日に予定されている伝統文化交流会のPR方法について意見を出し合いました。

参加者からは「祭りは見るものであり参加するものでもある」「地域での大切なコミュニケーションの場」といった声が聞かれました。



●町内各地区の保存会が会しての意見交換となりました

7/18

山への想いを伝える

アドベンチャーレーサー田中陽希氏が小学校を訪問



●交流会はテレビ会議で町内小中学校に配信されました

「日本百名山」の登頂などで有名な田中陽希氏が、現在行っている「日本三百名山」のチャレンジとして本町の高塚山と黒法師岳に登頂するため本町に滞在。その期間を利用して中川根第一小学校の児童との交流会を開催しました。

交流会では「なぜ山を登るのか」「一番面白かった山は」といった数多くの質問が出され、田中氏は「自分たちの住んでいる町の山を知ること、日本の山に興味を持てるようになる」と語りました。

今後は寸又峡から南アルプスに入り、富士山を経由して関東方面へと向かいます。

7/14

今年も無病息災を祈る

平谷の流したいが実施されました



●雨の中大井川に奉納されるたい

町指定無形文化財として平谷地区で毎年行われている「平谷の流したい」が実施されました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、地元の住民や中川根南部小学校の児童などおよそ150人が集まり、1時間ほどで直径およそ3mと1.5mのたい2つを作り上げました。その後は今年の無病息災を願う祈りを捧げ、たいに点火して大井川へ奉納しました。

伝統の儀式を終えた瀬平区の藤田清区長は「今年も無事にたいを流すことができた」と話しました。

テレビ会議で社会の授業

7/22

中川根第一小学校で社会科の遠隔授業が行われました

5年生の社会科で「米づくりの盛んな地域」について学ぶ授業が行われました。

この授業はテレビ会議を使用した遠隔授業として実施され、当日は毎年最高ランクの評価を受ける米の産地である南魚沼市の協力により、実際に生産農家の方と話をしながら米づくりについて多くのことを学びました。

児童から「毎年特Aランクのお米の味を維持するためにやっていることは」といった質問が出されていました。



●テレビ会議をとおして南魚沼市の農家に質問する児童

夏の海外研修へ向けて

7/17

中高生海外研修壮行会が実施されました

ホームステイにより生きた英語を学ぶ「カナダ英語研修」と、インドのゾーホーユニバーシティにおいてコンピュータプログラミングなどを学ぶ「インドサマーキャンプ」に参加する中学生と高校生の壮行会が開催されました。

今年度はカナダへ中学生25人と高校生4人が、インドには高校生6人が参加となります。

参加する生徒から「積極的にコミュニケーションしたい」など研修に対する意欲が述べられたのに対し、大橋教育長からは「英語はコミュニケーション手段の一つ、上手に話せなくても思いは伝わる」と応援の言葉が送られました。



●参加生徒が一人ずつ研修への抱負を話しました